

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第 75 回 総決算の 12 月、1 年間、ありがとう！

12 月は総決算の月、このときに当り、1 年の歩みを振り返り、お互いの心のケジメをつけたいものである。この 1 年、自分にとってどんな年だったのか、去年に比べ、一体何が進歩しただろうか？ 劣ったものは、何だろうか？ 自分が目指した年当初の目標を、どの程度実現できただろうか？ よかったものはよかった、悪かったものは悪かったと、素直に自分で採点しなければならないだろう。これらは、人がやるものではない。当然、自分自らでやるものである。

そうすれば、色々やったことが、この 1 年、決して自分ひとりで歩んだものでないことに、気がつくはずである。自分で気がつかないところで、実は、他の人々の協力を得ていた事実、また、思わぬところで他の人に迷惑をかけてしまったあの事実、客観的に、冷静に、走馬灯の如く浮かんでくるはずである。

そんな周囲の人々の協力に対しては、有難く感謝し、迷惑をかけたことに関しては、謙虚に謝罪する、こんな、当たり前のことを、当たり前に来る、いい機会がこの 12 月、総決算の時期である。「反省」とは、こんな意味を持つことなのかもしれない。

自分自身がやったことと、やってもらいたいと、他の人々に望んだことと、一体どっちが多かっただろうか？ 一緒にやってもらった人々への感謝は、正直に伝えられたらだろうか？ 決して「シャイ」や「照れ屋」と言う事なかれ、「ありがとう」と何回いえただろうか？...

そうした素直な自己反省こそ、次の新しい年の、自分の成長にプラスする何かを、必ず与えてくれると思う。

2004 年の年の瀬を迎えるに当り、大いなる反省のチャンスを満喫したい。昨年 10 月から連載したこのコラムも、おかげをもち今回で 75 回を数えるにいたった。要した資料は、A4 で約 1,000 枚、所要時間はおよそ 225 時間に至った。1 年のうち約 9.4 日間、コンピュータと格闘していた計算になる。

毎週、くだらないコラムに付き合っていていただき、本当に感謝している。小生自身、間近に迫った 2005 年こそ、飛躍的な年にしたいと思っている。そのための反省を、あと数日、思いっきりの力を込めてやり抜く所存である。会社のため、お客様のため、従業員や家族のため、そして当然、自分自身のために...である。

これをもって、2004 年の締めくくりのコラムとさせていただきます。

1 年間、ありがとうございました。